

平成28年度全国学力・学習状況調査及び「基礎・基本」定着状況調査の結果について（報告）

I 調査の概要

1 全国学力・学習状況調査

(1) 調査の趣旨

- ① 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査対象

区分	調査実施校数（校）			調査実施者数（人）		
	国	県	市	国	県	市
小学校第6学年	19,751	478	141	1,021,910	23,786	10,374
中学校第3学年	9,688	239	64	996,578	22,273	9,190

（広島県・広島市は、国・広島県の内数である。）

(3) 調査期日

平成28年4月19日（火）

(4) 調査内容

小学校第6学年

- ① 教科に関する調査
 - ・ 国語、算数の、主として「知識」に関する問題〔A問題〕
 - ・ 国語、算数の、主として「活用」に関する問題〔B問題〕
- ② 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する児童質問紙調査
- ③ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する学校質問紙調査

(5) 中学校第3学年

- ① 教科に関する調査
 - ・ 国語、数学の、主として「知識」に関する問題〔A問題〕
 - ・ 国語、数学の、主として「活用」に関する問題〔B問題〕
- ② 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する生徒質問紙調査
- ③ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する学校質問紙調査

2 「基礎・基本」定着状況調査

(1) 調査の趣旨

- ① 学習指導要領に示されている目標及び内容に基づき、「読み・書き・計算」などの基礎的・基本的な知識・技能の定着状況とともに、思考力、表現力などの状況を把握する。

- ② 児童生徒の生活や学習に関する意識や実態及び各学校における教科指導等の実態を把握する。
- ③ 各学校が全県的な結果と比較・分析することを通して、自校の課題を明確にするとともに、指導内容や指導方法の改善・充実を図る。
- ④ 調査結果を基に児童生徒の学習の到達度を明らかにし、教育行政施策に生かす。

(2) 調査対象

学 年	調査実施校数 (校)		集計対象者数 (人)	
	県	市	県	市
小学校第5学年	481	141	23,240	10,196
中学校第2学年	242	64	21,442	9,059

(3) 調査期日

平成28年6月7日(火)

(4) 調査内容(実施教科等)

小学校第5学年

- ① 国語、算数、理科における前学年までの学習内容の定着状況調査
- ② 生活と学習に関する意識・実態についての児童質問紙調査
- ③ 指導方法等についての学校質問紙調査

中学校第2学年

- ① 国語、数学、理科、英語における前学年までの学習内容の定着状況調査
- ② 生活と学習に関する意識・実態についての生徒質問紙調査
- ③ 指導方法等についての学校質問紙調査

(5) 調査問題の種類

① タイプⅠの問題

教科で身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼすなど基礎的・基本的な内容

② タイプⅡの問題

教科で学習した知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力などに係る内容

II 調査結果の概要

1 教科に関する調査の結果について

- (1) 全国学力・学習状況調査 正答数の分布状況
- (2) 「基礎・基本」定着状況調査 正答数の分布状況

2 質問紙調査の結果について(全国学力・学習状況調査)

[児童生徒]

- (1) 学習意欲
- (2) 自尊意識
- (3) 思考力・表現力
- (4) 学習習慣

[学校]

- (5) 指導方法

Ⅲ 課題となった設問例

中学校 数学

Ⅳ 学校の特色ある取組について

〔小学校〕

大河小学校 ～「共通認識をもったぶれない指導」の徹底と継続～

〔中学校〕

三和中学校 ～組織的・協同的な授業改善の取組～

Ⅴ 参考

- 1 平成28年度全国学力・学習状況調査結果
- 2 平成28年度「基礎・基本」定着状況調査結果

別冊1

別冊2

1 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査の結果について

① 平成28年度全国学力・学習状況調査 正答数の分布状況				② 平成28年度「基礎・基本」定着状況調査 正答数の分布状況			
教科等	A問題	B問題	特徴	教科等	教科全体 (タイプI・II)	特徴	
小学校 (対象 第6学年)	<p>本市 2.7 全国 4.0</p> <p>本市 84.6 全国 78.8</p>	<p>本市 16.7 全国 19.6</p> <p>本市 61.2 全国 57.6</p>	<p>A問題・B問題ともに分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。A問題・B問題ともに30%未満の児童の割合は全国平均より低く、60%以上の児童の割合は全国平均より高い。</p>	小学校 (対象 第5学年)	<p>30%未満 60%以上</p>	<p>分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。30%未満の児童の割合は5.0%であり、昨年度と比べて1.9ポイント増加している。</p>	
	<p>本市 2.7 全国 3.3</p> <p>本市 83.2 全国 81.8</p>	<p>本市 17.2 全国 20.0</p> <p>本市 38.6 全国 34.3</p>	<p>A問題は分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。B問題は中央が高い山形になっており、ばらつきが大きい。A問題・B問題ともに30%未満の児童の割合は全国平均より低く、60%以上の児童の割合は全国平均より高い。</p>		<p>30%未満 60%以上</p>	<p>分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。30%未満の児童の割合は3.9%であり、昨年度と比べて1.8ポイント増加している。</p>	
	本年度は未実施				<p>30%未満 60%以上</p>	<p>分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。30%未満の児童の割合は3.4%であり、昨年度と比べて1.1ポイント減少している。</p>	
中学校 (対象 第3学年)	<p>本市 1.3 全国 2.8</p> <p>本市 86.7 全国 85.1</p>	<p>本市 8.6 全国 9.5</p> <p>本市 63.6 全国 63.1</p>	<p>A問題・B問題ともに分布が右よりの山形であり、学習内容はおおむね定着していると見られる。A問題では、30%未満の生徒の割合、60%以上の生徒の割合が全国平均と同程度である。B問題では、30%未満の生徒の割合が全国平均より低く、60%以上の生徒の割合が全国平均より高い。</p>	中学校 (対象 第2学年)	<p>30%未満 60%以上</p>	<p>分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。30%未満の生徒の割合は5.2%であり、昨年度と比べて3.6ポイント増加している。</p>	
	<p>本市 10.8 全国 10.5</p> <p>本市 55.8 全国 57.5</p>	<p>本市 31.2 全国 30.8</p> <p>本市 28.8 全国 30.5</p>	<p>A問題は分布が右よりの山形になっているが、ばらつきが大きい。B問題は左よりの山形になっており、ばらつきが大きい。また、A問題・B問題とも、30%未満の生徒の割合が全国平均より高い。</p>		<p>30%未満 60%以上</p>	<p>分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。30%未満の生徒の割合は6.3%であり、昨年度と比べて0.2ポイント減少している。</p>	
	本年度は未実施				<p>30%未満 60%以上</p>	<p>分布が中央によった山形であり、基礎的・基本的な学習内容の定着にやや課題が見られる。30%未満の生徒の割合は19.1%であり、昨年度と比べて0.9ポイント減少している。</p>	
				英語	<p>30%未満 60%以上</p>	<p>分布が右よりの山形であり、基礎的・基本的な学習内容がおおむね定着していると見られる。30%未満の生徒の割合は5.1%であり、昨年度と比べて1.2ポイント減少している。</p>	

(2) 質問紙調査の結果について (全国学力・学習状況調査)

〔児童生徒〕 ①学習意欲 ②自尊意識 ③思考力・表現力 ④学習習慣 〔学校〕 ⑤指導方法

抽出項目 (経年変化)

考察

【児童・生徒質問紙】

設問 (内容)	校種	H21	H25	H26	H27	H28		
①	学校に行くのは楽しい	小学校 中学校	— —	86.5 80.8	88.0 82.9	88.1 82.8	87.8 (86.3) 83.5 (81.4)	
	国語の勉強が好き	小学校 中学校	57.4 57.5	57.6 57.2	60.4 57.9	61.4 58.9	58.9 (58.3) 60.2 (59.8)	
	算数・数学の勉強が好き	小学校 中学校	65.6 56.9	63.6 56.2	65.2 57.7	65.5 58.2	65.0 (66.0) 59.2 (56.0)	
	理科の勉強が好き	小学校 中学校	— —	— —	— —	83.1 56.2	— —	
	②	自分にはよいところがある	小学校 中学校	75.6 63.4	79.4 72.3	80.6 72.5	80.0 73.9	79.9 (76.3) 76.3 (69.3)
		将来の夢や目標を持っている	小学校 中学校	88.0 72.5	88.8 76.1	88.8 74.9	87.8 74.9	87.8 (85.3) 74.9 (71.1)
		学校のきまり・規則を守っている	小学校 中学校	87.7 90.9	90.9 94.8	91.3 95.0	91.7 96.2	92.8 (91.5) 96.7 (94.7)
		人の役に立つ人間になりたいと思う	小学校 中学校	92.3 90.2	94.3 93.5	94.8 94.7	94.4 95.1	94.8 (93.8) 94.0 (92.8)
③	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思う	小学校 中学校	61.8 74.5	54.6 65.6	52.3 64.8	51.2 61.4	49.6 (54.8) 59.1 (62.8)	
	話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	小学校 中学校	— —	— —	68.8 65.4	68.0 66.5	70.3 (68.3) 69.9 (64.8)	
④	家で学校の授業の予習をしている	小学校 中学校	33.7 29.9	37.1 31.2	40.6 33.3	38.2 33.7	39.4 (43.3) 33.2 (34.2)	
	家で学校の授業の復習をしている	小学校 中学校	40.2 38.2	46.0 45.8	50.2 50.1	47.8 50.8	50.9 (55.2) 50.1 (51.0)	
	学校の授業時間以外の普段 (月～金曜日) の1日あたりの勉強時間 (30分以上)	小学校 中学校	86.0 82.6	87.7 85.2	87.2 85.2	88.3 87.0	89.4 (87.9) 85.0 (85.6)	
	学校の授業時間以外に、普段 (月～金曜日) 読書をしている	小学校 中学校	80.2 —	79.1 —	81.1 —	80.7 —	79.0 (79.4) —	

【①学習意欲】
○ 学校に行くのが楽しいと思っている児童が平成25年度と比較して1.3%、生徒が2.7%増加している。
○ 国語、算数・数学の勉強が好きと思っている児童生徒が平成25年度と比較して増加している。

【②自尊意識】
○ 自分にはよいところがあると回答した児童が平成25年度と比較して1.1%、生徒が4.0%増加している。
● 将来の夢や目標を持っていると回答した児童が平成25年度と比較して、1.0%、生徒が1.2%減少している。
○ 学校のきまり (規則) を守っていると回答した児童・生徒が平成25年度と比較して、ともに1.9%、増加している。また、人の役に立つ人間になりたいと思っている児童・生徒がともに0.5%増加している。

【③思考力・表現力】
○ 自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることに苦手意識をもっている児童が平成25年度と比較して5.0%、生徒が6.5%減少している。

【④学習習慣】
○ 予習・復習をする児童生徒、家庭での学習時間が30分以上の児童生徒は平成25年度と比較して増加している。
● 依然として予習・復習を全くしていない児童生徒が一定数いる。(予習:児童23.3%、生徒31.0%、復習:児童16.8%、生徒18.0%)
● 家庭での学習を全くしていない児童生徒が一定数いる。(児童3.0%、生徒5.2%)
◇ 普段、読書をしている児童の割合は、全国平均とほぼ同程度、生徒の割合は、全国平均よりも高いが、基礎基本の学力向上のためにも、自主的に読書をする児童生徒の割合を高めていく必要がある。

【⑤指導方法】
○ 児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている学校が小学校では99.3%、中学校では100%であり、ほぼ全ての学校で児童生徒の活動を授業の中に位置付けていることがわかる。
● 総合的な学習の時間において探究の過程を意識した指導をしている小学校は80.9%であり、全国平均より低い。また、各教科の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けている中学校は85.9%であり、全国平均より低い。両校種共に今後とも指導の充実を図っていく必要がある。

【学校質問紙】

設問 (内容)	校種	H21	H25	H26	H27	H28	
⑤	児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている	小学校 中学校	96.4 90.7	98.6 93.7	97.8 93.8	98.6 98.4	99.3 (97.7) 100.0 (95.9)
	授業の中で目標 (めあて) を示している	小学校 中学校	— —	— —	99.3 96.9	100.0 100.0	99.3 (98.8) 98.5 (97.8)
各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けている	小学校 中学校	— —	— —	89.2 79.7	92.2 82.8	95.0 (92.8) 85.9 (88.9)	
	総合的な学習の時間において、探究の過程を意識した指導をしている	小学校 中学校	— —	— —	80.0 78.1	80.1 79.7	80.9 (83.7) 84.4 (83.0)

※ 表中の■は、全国平均を上回っている項目を示している

※ 表中「—」は、同年調査で実施していない設問を示している

※ 表中、平成28年度 () は、全国平均を示している。

B6 (2) 与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明する

6 美咲さんは、数当てゲームを行うために、次の手順を考えました。

手順

- ① 最初に数を1つ決める。
- ② ①で決めた数に10をかける。
- ③ ②の数から8をひく。
- ④ ③の数を2でわる。
- ⑤ ④の数に14をたす。

この数当てゲームは、手順通りに求めた数(⑤の計算結果)を教えてください、その数から、最初に決めた数(①で決めた数)を当てる遊びです。

(2) 美咲さんは、この数当てゲームを優太さんで行いました。



美咲さんは、手順通りに求めた数が30であることから、優太さんが最初に決めた数は4であることを当てました。どのようにして当てることができたのか、文字を使って、その方法を考えます。

最初に決めた数をaとして、前ページの手順にしたがって計算すると、次のようになります。

- ① 最初に決めた数をaとする。
- ② $a \times 10 = 10a$
- ③ $10a - 8$
- ④ $(10a - 8) \div 2 = 5a - 4$
- ⑤ $(5a - 4) + 14 = 5a + 10$

最初に決めた数をaとすると、手順通りに求めた数は $5a + 10$ という文字式で表されます。手順通りに求めた数 $5a + 10$ から最初に決めた数aを当てる方法を説明しなさい。

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕A 数と式

- (1) 具体的な事象の中に数量の関係を見だし、それを文字を用いて式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を養うとともに、文字を用いた式の四則計算ができるようにする。
イ 文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明することができることを理解すること。
ウ 目的に応じて、簡単な式を変形すること。

■正答及び正答率等

正答	正答率	誤答率	無答率
(正答例) 例1 手順通りに求めた数から10をひいて5でわる。 例2 手順通りに求めた数を5でわって2をひく。	13.6%	46.7%	39.7%

■主な誤答とその要因

主な誤答	要因
(誤答例) $5a + 10 = 30$ これより、 $a = 4$ になる。	手順通りに計算した結果を用いればよいことは理解しているが、その用い方を一般的に説明することができなかつたと考えられる。

内容の系統と指導のポイント



文字を用いて式で表すことのよさを知る。

直径の長さ	×	円周率	=	円周の長さ
1 cmのとき	①	× 3.14	=	3.14 (cm)
2 cmのとき	②	× 3.14	=	6.28 (cm)
⋮	⋮			⋮
□ cmのとき	□	× 3.14	=	□ (cm)
↓	↓			↓
x cmのとき	x	× 3.14	=	y (cm)

〔数量関係〕
文字を用いた式

文字に対する抵抗感を和らげながら理解させる。

平成28年度全国学力・学習状況調査 A問題

【文字を用いた式に表わすこと】

2(1) ある数を3でわると、商がaで余りが2になります。ある数を、aを用いた式で表しなさい。

正答率 30.8%
誤答率 56.7%
無答率 12.5%

〔数と式〕

- 文字を用いた式
- ・文字を用いる必要性和意味
- ・乗法と除法の表し方
- ・一次式の加減計算
- ・文字を用いた式に表すこと

文字を用いた式を活用することのよさを実感させる。

平成28年度全国学力・学習状況調査 A問題

【目的に応じた式変形】

2(4) 底辺の長さa cm、高さh cmの平行四辺形の面積 $S \text{ cm}^2$ は、次のように表されます。

$$S = ah$$

この式を、hについて解きなさい。

正答率 66.6%
誤答率 24.9%
無答率 8.5%

〔数と式〕

- 文字を用いた式の四則計算
- ・簡単な整式の加減及び単項式の乗除計算
- ・文字を用いた式で表したり読み取ったりすること
- ・目的に応じた式変形

本設問の活用の手順

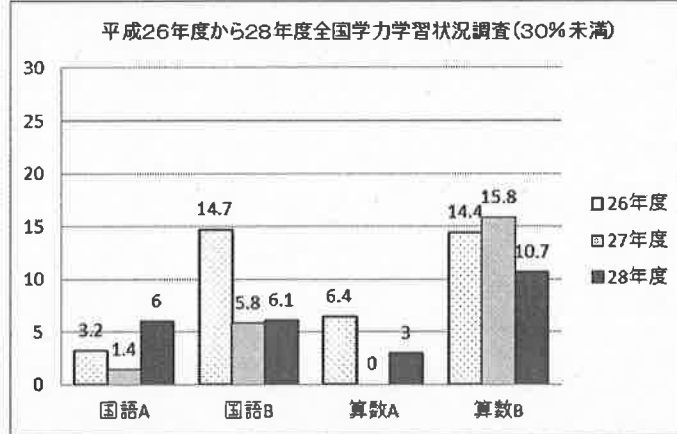
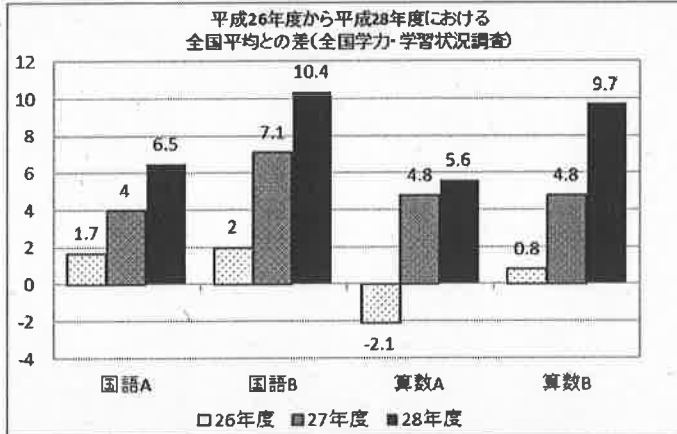
- ① $5a + 10$ を読み取らせる。
- ② 手順通りに求めた数から10をひいて5でわるなど、最初に決めた数を当てる方法を説明させる。
- ③ 手順通りに求めた数をbとおき、等式の変形の過程に基づいて問題解決の方法を振り返らせる。
- ④ 10をひく、5でわるということと式変形とを関連付けて捉えさせる。

大河小学校

～ 「共通認識をもったぶれない指導」の徹底と継続 ～

1 全国学力・学習状況調査の結果

- 平成27年度に続き、平成28年度も国語A・B、算数A・Bにおいて全国平均を上回り、全国平均との差を広げています。
- 算数Bにおいて、30%未満の児童の割合が改善されました。



2 効果があったと思われる取組

- (1) 「環境は人をつくる」と考え、全ての児童が落ち着いて規律ある学校生活を送ることができるよう、美しく整った環境づくりを大切にしています。
- (2) 基礎的・基本的な学力の定着のために、帯タイムの計画的な活用や家庭学習の習慣化に取り組んでいます。
- (3) 「論理的に考え表現する力の育成」のために、授業をはじめとした学校生活において、言語活動を充実させるための場を設定し指導しています。

(1) 教育環境づくりのための指導の「共有」と「徹底」

生活環境を整えるために共通して指導していることは次の5点です。

- ①ランドセルは、入れ方をそろえて、同じ方向を向くようにする。
- ②ぞうきんは、そろえてかける。
- ③教室を空ける時は、机の上を片付けて、椅子を必ず入れる。
- ④靴はかかとをそろえて靴箱に入れ、傘は必ず巻いて、傘立てにまっすぐに入れる。
- ⑤ほうき等の掃除道具は、向きをそろえて掃除ロッカーに入れる。

これらのことは、毎年、全校集会の場で確認し、定期的な振り返りを行い評価しています。その際、写真を用いて「見える化」して示したり評価したりし、学校の姿を肯定的に捉え、「継続」しようという意欲を高めています。

また、学習環境を整えるために「学習の約束」として次の5点を示し、全学級に掲示しています。

- ①わかりやすく手をあげましょう。
- ②名前を呼ばれたら「はい」と返事をしましょう。
- ③発表は、最後まではっきりとていねいに言きましょう。
- ④発表者を向いて、最後まで聞きましょう。

⑤ものさし・下じきを使って、ていねいに書きましょう
このことについても、定期的な振り返りと評価を大切にしています。特に、「聞く」ことが全ての学習の基本と考え、③④を重視して取り組んでいます。

「あいさつ」も重要な環境づくりと考え指導しています。児童会が毎年全校集会で「あいさつ劇」を行います。児童が主体となって発信することが特に効果を生んでいます。

また、右の〔資料〕は教育環境・授業づくりの視点で、常に意識して指導するよう共有しているシートです。年に4回、この観点で定期的な評価を行い、授業改善に取り組んでいます。

これらの取組や成果を保護者や地域に積極的に発信することで、意識を高めています。

本校では、このように教育環境を整えるために、指導の「共有」と「徹底」を図っています。

〔資料〕 授業 振り返りシート

【温かく落ち着いた教育環境】(教室環境・学習規律)	
1	ゴミなどを落とさず、清潔で気持ちのよい教室
2	掲示物など作品が大切に扱われている
3	チャイムの合図で授業を始める
4	チャイムの合図で授業を終わる
5	分かりやすく挙手している
6	指名されたら「はい」と返事をしている
7	発表は、最後まではっきりと丁寧に話している
8	発表者の方を向いて、最後まで聞いている
9	間違った発言をした子への受け止めが温かい
10	下じき・ものさしを使って、ていねいに書いている
【分かる授業づくり】	
11	本時の学習のめあてを示している
12	教師の指示は、最低限でわかりやすい
13	多様な考えを出させるために、活動や発問を工夫している
14	一人で考える時間と、自分の考えを表現する場が設定されている
15	学びを深めるための意見交流の場が設定されている
16	1時間の学習の流れが分かる板書になっている
17	つまづきを予想して支援方法(ヒント)、教材や助言を準備している
18	早く課題のできた子どもに適切な対応をしている
19	全ての子ども状況に目を向けている
20	タイムリーに肯定的な評価をしている

(2) 基礎的・基本的な学力の定着のために

全学年が、算数科の市販のまとめテストの結果を定期的に分析しています。全児童の解答をもとに、誤答率が高い設問については、誤答分析を行っています。分析を通して児童がどこにつまづいているのかを捉え、「大河タイム」(帯時間)における反復学習や家庭学習に取り入れれたり、授業改善の視点として取り入れたりして、確実な定着を図っています。この取組の継続により、算数科の学力の向上に大きな効果が表れています。家庭学習については、各学年に応じて量や内容をそろえ、全ての児童が「確実にやりきる」ことを重視し統一した指導を行っています。

(3) 言語活動を充実させるための場の設定

ノート指導を徹底し、自分の考えを自分なりの表現(言葉・絵・図・表・グラフ)でノートに書くことができるようになってきています。しかし、考えたことを言葉で相手に分かりやすく伝えることや、他者と考えを交流し深めることは依然として課題であり、〔資料〕にあるような場の設定とともに、「自分の考えをもつ→ペアトーク・グループ討議→集団で考えを深める」という授業展開を定着させるよう意識統一を行っています。

また、全校で「詩の暗唱」に取り組んでいます。「はっきりと声を出す」ことは伝え合うことの基盤と考え、「今月の詩」を正門前に掲示するとともに全児童に配付して音読しています。暗唱ができるようになった児童は校長先生の前で暗唱し、合格すれば「暗唱カード」にシールを貯めていきます。シールが貯まった児童には賞状を授与しています。校長室前廊下に合格者の名前を掲示し、互いの頑張りを認め合い、意欲の向上を図っています。



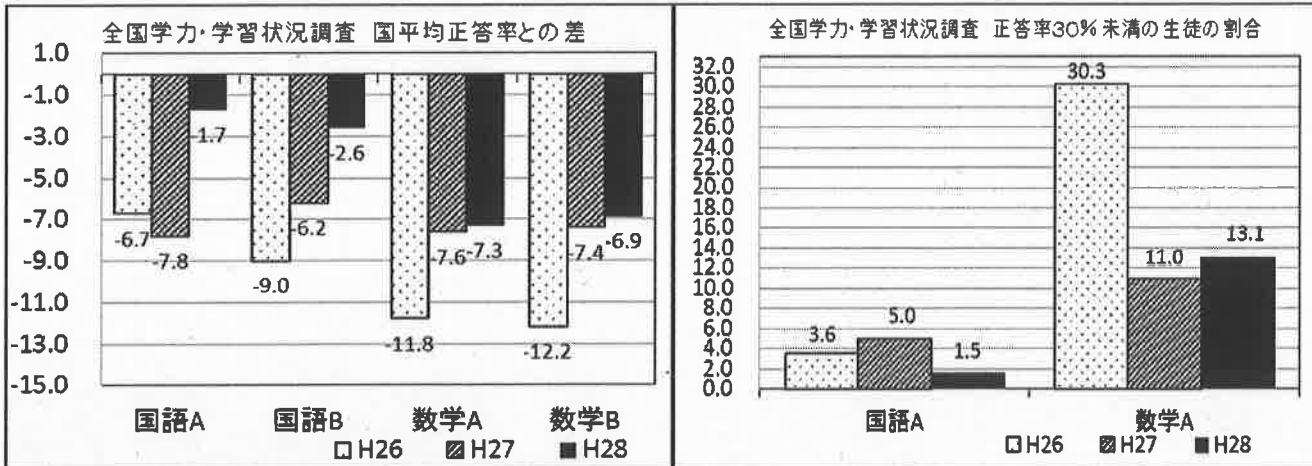
【校長先生からのメッセージ】

美しく整った環境の中で落ち着いた生活を送ることができる学校であることが、全ての教育活動の基盤であると考えます。教職員全員が同じ方向を向いて同じ基準で指導に当たる「ぶれない指導」を共有し、徹底することを大切にしています。「当たり前」を当たり前にするためには、児童も教職員も同じ方向を向いて取り組み、価値あることを自覚しながら徹底し、継続することが大切だと考えています。

今後も児童の学力の向上を目指して、「チーム大河」として教職員が一つになって授業改善に取り組んでいきます。

1 全国学力・学習状況調査の結果

- 平成28年度は、国の平均正答率との差が、国語、数学ともに減少しています。
- 平成28年度は、通過率30%未満の生徒の割合が、国語Aにおいて減少するとともに、平成26年度と比較して、国語A、数学Bともに減少しています。



2 効果があったと思われる取組

- (1) 学力向上推進事業「授業改善推進校タイプⅡ」指定校を受け、授業研究の充実を図りました。
- (2) 授業づくりの手立ての一つとして「三和中スタンダード」の作成し、教師・生徒で共有しました。
- (3) 学力調査の結果を分析し、授業づくりや放課後学習に活用しました。

(1) 授業研究を充実させるための取組

本校は平成27年度、28年度と2年続けて「授業改善推進校タイプⅡ」の指定を受けました。この指定は、国社数理英の5教科で年間4回（延べ20回）の研究授業を行い、そのうちの1回は公開授業研究会となります。すべての研究授業に広島市教育委員会より指導主事を招いて指導・助言を仰ぎ、授業研究を進めました。

研究主題として、平成27年度は「個に応じた学習指導の工夫～生徒指導の三機能を生かした授業づくりをめざして～」を設定し、平成28年度は前年度の成果をさらに発展させることをめざして「生徒が自ら学び、生き生きと活動できる授業づくり～かかわり合い学び合う活動を通して～」を新たに設定し、研究を進めました。

研究授業においても、研究主題を念頭に置いた授業になるように教科会で指導案を検討し、事前に指導主事の先生から指導・助言を受け、授業に臨みました。その際には、実技教科担当の教員も5教科のいずれかのチームに必ず属して、それぞれの研究授業や協議会に参加するなど、教科を越えた授業づくりに取り組んできました。

(2) 三和中スタンダードの作成

授業づくりの手立てとして「三和中スタンダード」を作成しました。

平成27年度は、学校の実態から学習環境を整えるために授業開始前からの学習規律を確立させることと、生徒指導の三機能を生かした授業づくり目指したスタンダードとなっています。

このスタンダードは、生徒が自分達で取り組む意識を持つことができるよう、生徒会が中心となって、生徒向けのプレゼンテーションやポスターを作成し、定期的に放送したり校内に掲示したりしています。

なお、平成28年度は、生徒たち自ら学ぶことができることを目指し、「かかわり合い学び合う」ことを研究テーマとして設定し、スタンダードの改善を図っています。



三和中スタンダード

教師の指導・行動	生徒指導の三機能	備考
授業開始前 教師はチャイムが鳴る前に教室に入ります 教室の学習環境を整えます ・机が整理（縦・横の列）されています ・カバンがロッカーの中、または上に置かれています ・床にプリント類やゴミが落ちていません ・授業用黒板が整備されています		生徒との会話を大切にします 授業の準備をするように呼びかけます
あいさつ 授業はじめのあいさつを確実にに行います ・学級委員の号令であいさつをします ・大きな声で「お願ひします」（礼をして、「お願ひします」） ・教師もあいさつを返します		あいさつができるように促します
導入 学習意欲を引き出す導入をします ・知識や経験とのズレ、身近な事柄、日常生活との関連から「？」、「！」を引き出します ・生徒が「追究してみたい」「取り組んでみたい」と思えるような場面を設定します 「本時の目標」を提示します ・本時に身につけさせたい力を「本時の目標」として提示します ・観点に基づき、「～ができる」、「～がわかる」の書き方を示します ・「本時の目標」のプレートを使います ・黄色いチョークで読み、わかりやすく示します	自己肯定感	教師が教えたことを生徒が知りたがることのできるよう促します
学習活動 教師の説明を少なくし、生徒が考える場面をつくります ・生徒がじっくりと考える時間を確保します ペアや少人数グループを活用します ・教え合わせることで、知識・技能の定着を図ります ・話し合わせることで、考えを深めさせます ICTを活用します ・興味を高めるとともに、理解を促進します ・自分の考えを生徒に説明させます 重要語句やキーワードを、色チョークを使ってわかりやすく示します ・視覚的効果を大切にします ・板書板書をたて、要点や学習の流れをわかりやすくします	自己決定 共感的人間関係 自己肯定感	生徒にとって分かりやすいものが基本です
まとめ・振り返り 生徒の「わかった」を確かなものにします ・生徒にまとめさせます ・適応程度で確認します 「次時の内容」を伝えます ・生徒に次の時間の見通しをもたせさせます	自己決定 共感的人間関係 自己肯定感	必要に応じて本時のまとめをより深めることができる学習課題を出します
あいさつ 授業おわりのあいさつを確実にに行います ・学級委員の号令であいさつをします ・大きな声で「ありがとうございました」（礼をして、「ありがとうございました」） ・教師もあいさつを返します		あいさつができるように促します

←生徒会が作成したプレゼンテーションの一部

(3) 学力調査の結果を活用

「基礎・基本」定着状況調査の結果を分析したり、全国学力・学習状況調査の調査問題を、単元毎の到達度を把握するために計画的に活用することにより、生徒が苦手としている領域を把握し、その対応策を教科会などで検討しました。それをもとに、授業の指導計画に反映させたり、月曜日に行っている放課後学習に反映させたりするなどしています。

また、本年度は、「まちぐるみ『教育の絆』プロジェクト事業」の取組として、基礎学力の定着を図ることを目的に「三和中きずなルーム ひまわり」を開設し、夏休みや試験前、部活動のない月曜日の放課後に、地域の方や大学生のサポーターによる学習指導を行っており、今後は、学習調査の分析結果を反映させた取組を推進していきたいと考えています。

【校長先生からのメッセージ】

学校には、子どもたち一人ひとりが安全・安心して集団生活を営み、その中で、学力を高め、身体を強くし、そして人間性を高めるという役割があります。

学校生活の大半を占める授業の質の善し悪しは、当然のことながら、学校生活全てに対して大きい影響力をもっています。従って、授業に対する子ども、保護者からの信頼を必ず高めなければいけません。

子どもの学力差（二極化）が顕著な中、個々の子どもの満足につながる授業づくりが容易でないことは異論のないところかと思えます。しかし、われわれ教師の使命として、授業に対する認識レベルを共有し、子どもの理解を高める様々な策を練り、工夫ある授業計画を立案、共有して授業に臨む姿勢は、今後とも大切にしていきたいと考えております。